
ガリアの虚無-95315

無軌道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガリアの虚無 - 95315

【NZコード】

N77230

【作者名】

無軌道

【あらすじ】

主人公がガリアに飛び、無双をしようとする
…が、なんと主人公は虚無になってしまつ
るくな魔法は使えない

しかし、死ぬほどの苦労をして
漸くレビューションを得する

そして、レビューションを応用し風のラインと偽り
最強になる…かもしれない

始まりのはじまつ

ある時、交通事故に巻き込まれた
それは突然で避けようも無く
無情に俺の命を刈り取ろうとしていた：

「つて、こんなで死んでたまる…かつ…
こちどり、18で人生これからなんだよ」

普通跳ね飛ばされて終わるだけの筈の彼は、火事場のクソ力を発動し見事に、子供達の前でトラックを止めてみせた

「ふじか…がはつ」血を吐き、まともに言葉が紡げなかつた。
(やばいな、肺がやられてるのか？)

息が出来ねえ（

子供達の先頭に立つ、少し背の低い子が尋ねる

「お、おじさん大丈夫？」（おじさん違つんだが…）

「ああ、大丈夫…だつ

だから…もう行きな

「で、でも心配だよ

救急車もよんだりしないとだし…」

（つたぐ…トラウマにでもなられたら寝覚めが悪いつづのに…）

「いいから…こきやがれつ…がはつ
…じやま…だ」

（意識が朦朧としてきた…）

血が足りてねえのか？…いや、息が出来てねえのかもしだねえ（

「で、でも」

「でもも糞もねえつ…

俺に、殺されたくなかったら…ぐつ

さつむとどつかにいきやがれつ」

最期の死力を死くして彼は叫ぶ

その迫力に、子供達は散り散りに逃げ出した

…話かけてきた子を除いて

（あ、やべえ今まで限界っぽい…

まさか、こんなで死ぬとはなあ

しかし、このガキいつまでいるつもりだ？

他のは全員逃げ出したつづうのに（

「おじさんありがとう。」

「い…………い、わす…………れ…………る」

かされた声で、声を放つ

もう、吐く血すら残つていないようだった

「忘れないよ、ずっと覚えてる」

全てを察しているらしい子供は

微笑みながら、涙を流した

彼は苦笑し

「…………かつ……て……に……し……ろ」

彼は、その生涯の幕を笑いながら閉じた

パチパチパチ

拍手の音で、目が覚めた

…周囲は、何処までも白の世界で

音の発信原を探る事が出来なかつた。

（なんだ…？俺は、死んだん…だよな…？）

「そう、君は死んだ」

（うおつ）

「うむ、良いリアクションだ」

(なんだそれ…?)

ああ、あれか?心読めるとか、そういう展開?

「そうだ、君は話が早くて助かる」

(そうか…そうすると、個々は天国若しくは審判台、選別所…それ

か地獄

そんでお前は、神かなにかか?)

「はつは、察しが良いなあ

俺が神と言うのは正解

場所は、君の言うところの審判台が正しいかな

(どうか、んで?

俺はどうなるんだ?

神がいるなら、天国か地獄にでもぶち込まれるのか?)

「いや…君には、もう少し選択肢を用意した」

(なんだ?)

「まず一つ目、順当に天国に送り込まれる

次に二つ目、現世に蘇る」

(なつ!…なにが狙いだ…?)

…蘇れるとして対価はなんだ?)

「ふつふ、君は本当に察しがいい
まあまず、狙いだが…まだ言えない

次に対価は…子供達の命だ」

(おい…選択肢をもう一つ用意しろ
…てめえを殺して、此処に留まるつ)

彼が殺氣を放つ

「はつ、怖い怖い

神を相手に、憶せぬ殺氣を放つとは

…しかし、といつことは

君はこのまま、死んでいいのか?」

「あ…?それで

はい分かりました、とでも
言つと思つてたのか？

嘗めんじやねえよ

「うぐつ、いきなりデカい声を出すな
なかなかにうるわー

そうか、だが

…たしかお前は、死ぬ前に

ここで死ぬ気は無い、と言つていなかつたか？」

（それがどうした？）

「いやなに、それなら現世に未練でも
有るんじゃあ無いかと思つたんだがなあ
違つたか？」

（ちつ、未練といつか

これから色々、やりなきゃあいけない事もあつたんだが
まあ、あいつらのことだ

俺が居なくとも何とかなる…筈だ）

「そうか、では

戻らないのか？」

（はつ、それこそ俺達を嘗めるな
てめえみたいな、奴の手なんぞ借りんでも
何とかしてみせらあ）

「くつくつ、実に良い

君は面白い

…では、最後に君は助けた事を後悔していいのか？

（するわけねえだろ、いつも後悔はしねえよつに生きて來たんだよ）

「はつ、實に良い

そうか…ならば、もう一つ選択肢を用意しようつ

（なんだ？）

「転生する氣は無いか？」

（転生？あー、剣と魔法の国ヘビューン…てか？）

「ふむ、君が望むならそのような世界にしてよつ

(いやいやいや、違いますよ？)

俺は、転生のイメージを言つただけで

「まあ、其方の方が面白そつだ

そつじよつ」

(おこつ！？)

「さて、そつと決まれば

早速転生したいのだが、決意は固まつたか？」

(はええよ、ああ…転生ねえ？

思い付く所と言えば、チート性能を持つて無双するくらいだが（

「うむ、ならば魔力はお前の向かう世界で

最も多い者の一倍にしてやるわつ

体も、まあ腕力も最強の一倍でよいか

(適当だなあいつ、まあ

それなら良いか、転生)

「そつか、ならば行つて貰おつ」

神がそう言つと、数歩前に半径一メートルほどの黒い穴が

地面らしき所に空いた

(転生とは…予想外だつたな

では、いく…ん？)

何故かもう一つ、黒い穴が空いた

：何故か、自分の足元に

(なぜだあああああーー)

「いや、すまん

なんか、イタズラしたくなつた

(（ふざけ……）

「ああ、転生したのか

面白い奴だったなあ…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7723o/>

ガリアの虚無-95315

2010年11月8日00時34分発行